

インフルエンザ

—今冬の流行状況—

今冬のインフルエンザは流行が遅く始まり、県内の1週間の定点あたり患者報告数が10人を超えたのは2月中旬でした(図1)。3月に入ってもまだ患者報告数は増加傾向にあり、引き続き注意が必要です。

現在までの分離ウイルスは多い順に、A香港型(3月12日現在の全国分離数745株)、B型(同489株)、およびAソ連型(同99株)です。県内でも昨年10月から現在までに搬入された呼吸器由来82検体からA香港型30株、B型14株、Aソ連型8株が分離されています。図2に県内のインフルエンザウイルス分離状況を検体採取週別に示しました。

近年、春から夏や秋の季節にもインフルエンザの小流行やウイルス分離の報告が全国各地からあります。また、新型インフルエンザが発生した際の早期探知のためにも年間を通じて継続的なサーベイランスが必要となってきています。

病原体定点の先生方には、引き続き検体採取に御協力をお願いいたします。

図1 インフルエンザ患者報告数

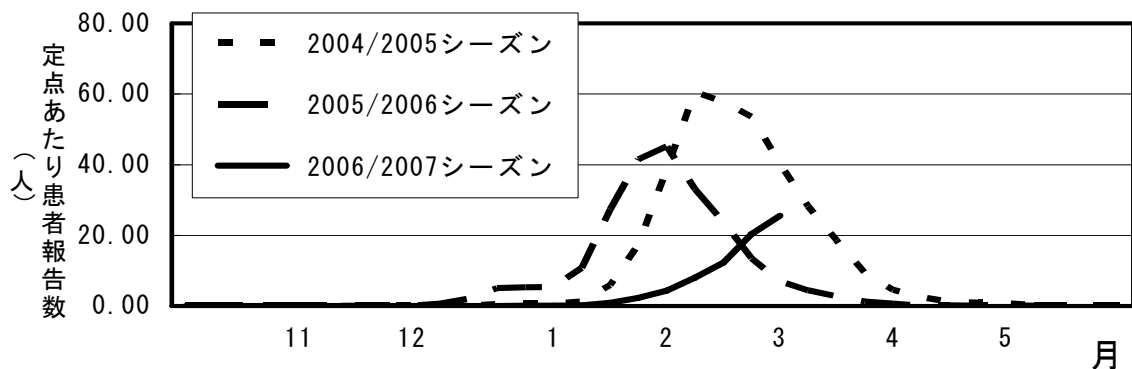
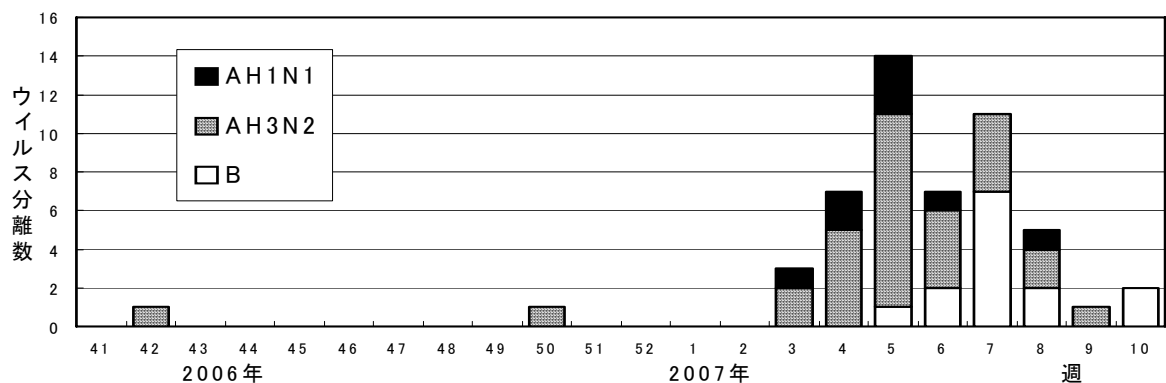


図2 インフルエンザウイルス分離数(検体採取週別)



インフルエンザに関する全国情報は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.gov.jp/iasr/index-j.html>)で御覧になれます。